

渦の音クラブ会報

旧徳中・一高・城南高校 同窓会関東支部

発行所
渦の音クラブ事務局
〒106-0032
東京都港区六本木1-9-9
六本木ファーストビル 7F
生田・名越
法律特許事務所
S41卒 生田哲郎
(渡辺・長瀬)
TEL 03-5574-8226(代)
FAX 03-5574-8227

2004年11月7日
日曜日/正午から



第29回 [渦の音クラブの集い] 開催案内

■夜は出にくい！遅いと帰れない！そんな声を反映して、日曜日のランチタイムに開催します。
■正午受付開始。総会・講演会・懇親会、閉会は四時前の予定です。
■会場は、平成八年から八年間、新宿・京王プラザホテルでしたが、今年からは、我が国大学発祥の地に建つ歴史を刻んだクラシックな建物・学士会館2階大会議室(210号)です。

会場は 神保町 学士会館 大会議室(210号)



★お食事は、精養軒のシェフが腕を振ります。恒例のすだち竹輪の持ち込み不可が玉に瑕？
■立食ですが、着席です。お席は同期で、同テーブルに着席できるよう配慮します。

参加費は一人七千円 年会費は10千円

■参加費は、お一人七千円。ご夫婦で一人分は廃止。昭和五十年以後の卒業生の男女比は半々。この際すつきりと！
■年会費は今まで通り一口千円です。ご協力どうぞよろしくお願ひします。
■常任理事会では！事務局移転に伴い今年も心機一転。新企画を協議し、種々の工夫に挑戦。一月は学士会館、三月・五月・七月は六本木の生田事務所会議室と、遠藤会長生田事務所長を初め、副会長常任理事・当番学年他関係理事が参集、手弁当で「渦の音クラブ」の企画・運営にあたりています。事務全般は生田事務所若いスタッフ、渡辺・長瀬両氏が担当、サポートしてくださっています。

催しのお知らせ
十月一日(金)午後六時
■学士会館 三〇六号室
■会費 五〇〇〇円
■今年役員改選の年です。理事の皆様是非ご出席を！
■詳細は事務局より別送。

「今年の会場係は 昭和五十年卒です。」

私たちが入学した年昭和四十七年は、大きな変化のあった年でした。総合選抜制となり、また家政科がなくなつた年です。男女比が半々となり城南の空気が変わった時期その第一期生が私たちです。在学中に第一次オイルショックがあり高度成長に陰りが見え始めた時代でもありました。それでも皆目いっばい青春を謳歌した陽気な世代です。在京者は三〇人ほどと少ないですがこの機会にまた結束を強くしています。(長尾・島原記)

「暮しの手帖」的視点から！「いまどきの健康迷信について」

いまだときの迷信は、一見科学的な衣裳をまとって、私たちが悩ませます。例えば、マイナスイオンや、がんを防ぐというふれこみのベータカロチンのように。あるいはいまはやりのアミノ酸にしても、その根拠は薄弱で、売らんかなそのものです。「いいものを長く・偽物に惑わされない」商品テストに裏打ちされた花森の視点からみた、暮らしをよくする情報を、お聞きしたいと思ひます。



講師プロフィール 昭和四三年城南高校卒。早稲田大学第一政経学部卒業後花森安治に憧れ、暮しの手帖社に入社。平成十四年秋から「暮しの手帖」誌第三代編集長に。

Ashuunoisai hagukumutokoro.Haearurekishiiwanagaretetukizu.Hokorinodentoku

今年のピアノラクションは素晴らしい演奏です。

ピアニスト 田中梢
「ソロ活動のほか、伴奏者としてもジャンルを超えて様々な音楽家と共演」

今年美顔のピアニスト田中梢さんをお迎えし、素晴らしい演奏、楽しい語りで、心地よいひとときを過ごして戴ければと考えています。また、なんと田中さんが、私たちの歌の伴奏もしてくださるとのこと出席された方々が楽しめるよう、当番学年が選曲に粋をきかします。学生時代の懐かしい歌、時代と共唱されている歌……そして新しい歌も。いろんな歌を楽しんで戴ければ幸いです。(島原記)

ピアニスト・プロフィール 東京学芸大学教育学部音楽科卒。サントリ小ホールでのリサイタルをはじめ各地でソロ活動。コンチェルトのソリストとしても多数出演。お話と演奏の楽しいコンサート「ピアノのびつくり箱」を各地で開催、好評を得ている。現在東京芸術大学オペラ科講師。東邦音楽大学講師。二期会イタリア歌曲研究会、音楽家協会などもピアニストを務める。渦の音クラブ・山本鈴子副会長(城南昭和二六年卒、徳大芸音楽科卒)とは長年に亘り親交厚く、山本氏の主宰するコーラス・グループの伴奏も。

「母校の今」ビデオを上映。
あのプールはまだあるの？城南富士はどうなった？百周年記念同窓会会館は？百二十周年記念のアパバイ像は？「城南高校の今」を懇親会の席上でビデオで紹介していただきます。

「母校だより」
城南高等学校長 鳥羽俊明

今年も昨年同様、日々の学習活動はもちろん、校舎改築の実施設計、SSH事業、高校入試改革、部活動の活性化、FSを中心とした城南祭、徳島城南塾、文化教養特別講演会などに取り組んでおります。また、本県も今年から学校評価制度を導入し、本校も(1)学力の向上(2)基本的生活習慣の確立(3)部活動の活性化を3本柱として、それぞれに数値目標を掲げて取り組んでいます。お陰で昨年度末の大学



進学についても近年にない成果を上げる事が出来ました。また、部活動の面でも今年の県総体では男子テニス部の二連覇を筆頭に男子ソフト部、女子弓道部の準優勝、陸上競技男子短距離、リレー、女子走り高跳び優勝など各部とも上位に数多く進出できました。四国大会には昨年以上の89名の選手が出場できました。現在、生徒たちは学校生活の様々な場面で頑張っており私ども教職員も文武両道の学校づくりに向けて頑張りますので今後ともご支援のほどよろしくお願ひいたします。

第二十八回 渦の音クラブ

総会・講演会・懇親会が
平成十五年十一月十四日、京王
プラザホテルで開催されました。



「総会報告」総会の司会進行は、渦の音クラブ事務局長杉崎茂氏。会長挨拶、平成一四年度会計報告・役員一部交代（満場一致で承認）、来賓祝辞（城南高校長）その後、懇親会に移行しました。

「同窓会の意義とは」

会長（昭和二十八年卒） 遠藤哲也
……（総会挨拶から）……さて、

この同窓会の意義とはどういうものかと考えてみました。

第一には年一回ですが、母校と一緒にするものが集い、旧交を温める事で更なる強い絆を結び、各人が同窓会意識を高め、あう事ではないでしょうか？

第二としては、卒業した母校のために、文化的な事でも、体育的な事でも、何か役立つ事をして、支援してあげる事ではないかと考えています。皆さんのご協力ご支援をお願いします。

「城南高校の現状と将来の展望」

母校からは鳥羽俊明中学校長・影谷節子同窓会副会長（S三九年卒）・坂野栄一事務局長（S三四年卒）が出席されました。鳥羽校長から、新校舎の改築・平成十六年から単独入試選抜制度に移行する事・文部科学省からスーパーサイエンス高校に指定されており、それに伴う秋山仁氏・梅原猛氏、他同窓生による城南塾の開講について等の詳細な説明・母校への益々の協力支援の要請がありました。



..... 去年の懇親会の当番学年は昭和四九年卒業の皆さんでした。



☆懇親会の司会進行は当番学年で落研出身の角元利彦氏。



南極の氷のオンザロックで乾杯 ☆南極観測船「しらせ」が持ち帰った南極の氷を採取の模様を高木謙至氏（当番学年）がスライドで説明。



☆遠路大阪から参加の、二代目事務局として、九年前奮闘してくださった吉森赳夫氏（昭和三六年卒）の音頭で、学術研究用南極の氷が、ウイスキーに溶けて何万年も閉じて込められていた空気の泡がはじける微かな音を耳元で聞きながら、貴重なオンザロックの試飲体験。乾杯！



「アトラクション」は「プロミュージシャンとして活躍中の堀尾和孝氏（当番学年）のアコースティック・ギターの演奏とボーカル（小松島西高校出身）のゆうさんによるライブでした。



☆旧徳中城南高校の校歌を全員で斉唱。ピアノ伴奏はこの日のために練習を重ねた当番学年の大月多美子氏。



☆前事務局に感謝の花束を贈呈。☆卒業生以上に、渦の音クラブの運営にご尽力下さった、四代目事務局局長・西松建設の宝来安徳氏、五代目事務局局長・イーグル工業の杉崎茂氏と、平林夕子氏に感謝の花束を贈呈しました。

当番学年の引継ぎ ☆最後に、当番学年幹事を代表して、澤田達男常任理事から、ついで来年度当番学年〓昭和五〇年卒業の長尾紀久子学年理事から、それぞれ挨拶がありました。



☆今年の幹事さんに感謝しつつ、来年も盛大な会になる事を祈念して、大きな拍手の中閉会となりました。（遠崎記）

年度別卒業生数と渦の音クラブ会員数

(2000年発行の名簿による。)

卒業年度	卒業生数		渦の音クラブ 会員数	
	普	家	普	家
旧制徳島中学				
(明治14年～大正15年の間割愛)				
昭和02	188	-	6	-
03	198	-	5	-
04	200	-	2	-
05	194	-	6	-
06	185	-	5	-
07	189	-	11	-
08	205	-	11	-
09	197	-	5	-
10	202	-	9	-
11	202	-	12	-
12	218	-	12	-
13	206	-	15	-
14	197	-	14	-
15	211	-	12	-
16	194	-	10	-
17	190	-	17	-
18	207	-	21	-
19	216	-	16	-
20	5年制 214	-	21	-
	4年制 210	-	16	-
21	4年制 110	-	11	-
22	5年制 129	-	13	-
23	5年制 145	-	16	-
24	5年制 313	-	38	-
併設中学校				
昭和23	258	-	30	-
24	284	-	39	-
徳島第一高等学校				
昭和24	108	-	14	-
城南高校				
卒業年度	卒業生数		渦の音クラブ 会員数	
	普	家	普	家
昭和25	121	-	18	-
26	227	-	23	-
27	289	-	30	-
28	280	-	48	-
29	267	-	38	-
30	365	-	51	-
(家庭課程は昭和28年新設・昭和47年募集停止)				
昭和31	349	52	41	1
32	259	44	53	5
33	300	49	63	6
34	369	42	58	6
35	354	48	58	5
36	370	49	68	3
37	359	51	77	3
38	357	52	79	4
39	303	41	48	3
40	375	54	83	8
41	603	54	107	2
42	591	56	103	2
43	564	55	82	3
44	454	53	89	5
45	435	48	84	4
46	410	40	71	0
47	399	45	63	2
48	399	43	61	1
49	405	43	69	2



「坂本君と弘美夫人は、高一の時に教室で机を並べていました。今も同期会には、いつも揃って出席されるので実に羨ましい！」と同期(三十七年卒)の浜尾副会長が、講師を紹介。



「渦の音クラブにも素晴らしい活躍をしている会員が大勢おられる。この会をより文化的なものにしてはということ、今年からミニ講演会を開く事にしました。」と遠藤会長が講演会の主旨を説明。



総会・懇親会に先立って、『木造建築を見直す』東大の坂本功教授(昭和三十七年卒)の講演会が開催されました。



「割り箸は木材の特質をよく生かしている。しかも、弱いから役に立つ。もし鉄のように強いと大切な歯の方を傷めてしまう」という含蓄に富んだ話で締めくくられました。(遠崎記)

坂本功教授は、木造建築の第一人者です。阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた木造住宅の耐震性、社寺や民家など伝統構法の再評価、体育館や、校舎など大規模高層木造の構造性能などの研究をしておられます。今回は①どんな木造住宅が地震に強いのか?②懐かしの木造校舎はどこへいったか?③五重塔は地震に強いのか?という三つのテーマについて、大震災直後の神戸などの被災状況をご自身で撮影された迫力あるスライドや今までに開いた方々の建築物のスライドを交えて講演されました。なるほどと感心したり、そうだったのかと納得したり、非常に有意義な四十分間でした。最後に割り箸を取り出され、



Bizannowakabaliniterihaete Anannosoranoakarukikitvami Kizukuhewanosugatatonozomu Omoiwatohsiwareranoyukute Ohhikariawaga(OHNANKou)



卒業年度	卒業生数	渦の音クラブ 会員数
昭和50	447	37
51	449	70
52	525	33
53	546	40
54	485	35
55	532	33
57	537	28
58	440	33
59	444	23
60	398	19
61	491	23
62	475	23
63	491	18
平成元	485	17
2	533	19

「渦の音クラブ」三十一年度の歴史を発足当初からずっと常任理事の井形節夫氏に伺いました。(続)

今回は「歴代会長」について渦の音クラブの生き字引・初代事務局長・井形節夫氏(昭和二〇年旧制徳中卒)に伺いました。

今の遠藤会長で六代目になります。私が事務局を預かっていた十三年間と、その後も併せて十六年間、会長は堀江薫雄氏(大正十一年卒)でした。当時東京銀行の頭取で、経済界の重鎮として国際的にも活躍されていた方で、非常に多忙で会議の日程を取るのも大変でしたが、いつも細かく事務局にも気を遣って下さる方でした。二代目は平井学氏(昭和八年卒・東日本建設業保証)三代目は吉兼三郎氏(昭和十四年卒・都市文化振興財団)お二人とも、大変な格者でいらつしやう。四代目は犬伏孝治氏(昭和一八年卒・日本食肉消費総合センター)は

事務局が大林組(篠原良男副会長・中岡茂樹事務局長)の時、会費の導入(平成九年から)など組織の安定に尽力されたのだが、犬伏氏は一昨年、中岡氏も今年鬼籍に入られ残念な事です。私が旧徳中在学中は太平洋戦争中で学科の中に普通科第十一師団から配属された。毎年三学期の初め師団長の査閲があり、私が一年生の時の分列行進の中隊長が三年生の犬伏さんだった。当時の校長は深井源治反戦校長だったので、査閲官の講評は毎年最低ランクでしたよ。二、三、四代目会長は、二期・四年間ずつ務めて下さいました。五代目の金山良治氏(昭和二四年卒)は徳島第一高校卒業生という事で、西松建設社長という超多忙の中、一期二年間ですが会長を務めてくれました。(6.12談遠崎記)

